

# 目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は   ☆印の箇所を記入してください。

## I. 評価項目・要素と担当部局

本シートの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	商学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.4 成果
小項目	6.4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。
要素	学生の学習成果を測定するための評価指標の開発とその適用 学生の自己評価、卒業後の評価（就職先の評価、卒業生評価）
小項目	6.4.2 学位授与（卒業・修了判定）は適切に行われているか。
要素	学位授与基準、学位授与手続きの適切性 学位審査および修了認定の客観性・厳格性を確保する方策（院）（専門）

## II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

### 《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学習成果を図る指標としてのGPAおよび/または平均点を検証し、それらの活用方法（例えば、奨学金推薦要件、研究演習所属要件、研究科進学要件など）を改善する。	→GPAおよび/または平均点の基本統計量（平均、標準偏差など）の推移	C	C	B		
2. 商学部の各教員が用いている教育効果の測定方法や成績評価の仕組みを共有し、客観的な評価方法を構築する。	→指標開発活動に関する教授会報告の状況、研究会の開催件数および提言・実施状況など	B	B	B		
3. 単位認定のさらなる適正化を図り、MDSを積極的に提供する。	→単位認定の理由と件数、学士（商学）としての卒業生数、MDSの受入生数・修了生数	B	B	A		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

### 《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	成績評価結果の基本統計量については、商学部事務室において常時閲覧できるようにしている。また交換留学希望者、外国人留学生の奨学金受給者の推薦等にあたっては、GPAまたは平均点の成績を重視して選考している。 研究演習の所属決定にあたっては、成績要件を組み込むことは強制ではないが、多くの教員が成績（GPAまたは平均点）を重視し、学生の選考を行っている。研究科の進学にあたっては、「面接のみの入学試験（3年）、（4年）」の要件として、平均点等の成績が用いられている。 このような学業成績が留学や大学院進学等のチャンスを大きく左右することについて、新入生オリエンテーション等を通じて入学時から周知しており、そのことで勉学意欲の向上に結びつけている。
目標2	将来構想委員会が主催する研究会等を通じて、入口（入学時）から出口（就職）までの期間にわたるすべての教育に関して、現状認識から教育効果改善方策について外部講師を招いて知識を深めるとともに、議論を行った。 出口に関する成果の1つである就職決定率については、商学部は、就職活動中・後の期間にわたり、他学部に比べて高い水準を維持している。
目標3	2012年4月からの新カリキュラムの開始に伴い、商学部の各コースの教員および商学部教務で、全ての単位認定の妥当性について検討し、一部単位認定の廃止、認定単位の限定、単位認定試験の更新等を含めた単位認定制度全体の見直しを行い、適正化が実現された。新しい単位認定制度は、2012年度入学生から適用されている。なお、すべての単位認定については、教授会で承認された後、認められる。 また、商学部へのMDS希望者は昨年度と比べて増加した。すべてのMDS希望者について教務で面談を行い、勉学意欲・過去の履修状況・学業成績等の確認を行った後、受け入れを決定している。
備考	